

- ウォークコース
- 南海道
- 灌漑用水路
- 万葉故地
- 道標
- 城跡
- 公園・緑地
- 国道 24
- 県道 65
- 駅
- 学校
- 寺
- 神社
- 見どころ

0 500m

3 紀伊国分寺跡と目指して

古代より何度も行われた天皇・皇族による行幸の旅を想いつつ歩きます。行宮(天皇仮宿泊所)跡を見て紀伊国分寺跡に向かいます。ほぼ大和街道を辿りますが、JR名手駅、粉河駅付近では南海道がそのまま大和街道に受け継がれていることがわかります。

- 到着** JR下井阪駅 0.5km 10分
- 紀伊国分寺跡 2.7km 54分
- JR打田駅 2.6km 52分
- 上田井八幡神社 大師井戸 1.3km 26分
- 風市森神社 4.8km 96分
- 旧名手本陣妹背家住宅 1.7km 34分
- 出発** JR西笠田駅

紀伊国分寺跡



天平13年(741)の聖武天皇の詔勅により全国に建立された国分寺の一つ。南海道の国分寺として軒瓦では淡路国分寺と、伽藍配置では讃岐国分寺と共通性をもつ。

長田観音

本尊は如意輪観音で厄除け観音と呼ばれ、毎年2月の初午の日の祭礼は江戸時代から続いており、今も参詣者で賑わう。



春林軒塾跡

医聖と呼ばれた華岡青洲の住宅兼病院・医学塾であった建物群が復元されている。青洲が初めて麻酔を使用した手術風景、門弟への講義の様子などが再現されている。



粉河寺

『枕草子』に「寺は石山・粉河・滋賀」と記されている古くからの名刹で、西国三十三番観音霊場第三番札所。



旧名手本陣妹背家住宅

江戸時代に名手組の大庄屋を務めた妹背家の邸宅跡で、紀州藩主が参勤交代の折、宿泊するようになり、本陣と呼ばれた。敷地内の主屋・米蔵・南蔵は重要文化財。



紀伊国分寺跡と目指して

紀伊国分寺跡

国の華として紀の川流域の中ほど、旧那賀郡の高燥な地に営まれていました。発掘調査により七堂伽藍と2町(約220m)四方の寺域が確認されています。天平勝宝8年(756)那賀郡司日置氏が稲1万束を寄進しておりこの頃寺容が整ったと考えられています。

堂塔は瓦積み基壇上に興福寺式軒瓦を採用して建立され、巨大な七重塔がシンボルでした。元慶三年(879)落雷により全焼。その後、幾多の盛衰を経て江戸時代には根来寺の末寺となります。

跡地は現在史跡公園として整備され南側に国分寺の歴史が学べる紀の川市立歴史民俗資料館が建っています。(宗)国分寺は資料館の南に移転し法灯が受け継がれています。



紀伊国分寺跡



紀の川市歴史民俗資料館

華岡青洲と春林軒塾跡

華岡青洲(1760~1835)は現在の紀の川市平山に生まれ、藩医として勤め、その間に全身麻酔薬「通仙散」を作り、文化元年(1804)に世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功しました。春林軒塾は発掘調査の結果、居宅兼治療の場であった主屋のほか、病棟・製薬場・講義用の建物を備えた本格的な医療施設であったことが分かり、遺構の配置に基づいて建物が復元されています。

行幸と行宮

「行幸」は「ぎょうこう」あるいは「みゆき」と読み、天皇の旅行を言います。「行宮」は「あんぐう」あるいは「かりみや」と読み、行幸中の天皇が宿泊する仮の宮を言います

万葉時代に紀伊国行幸(天皇の紀伊国への旅)は四度行われました。その多くは紀の川筋の道をとりました。聖武天皇は、神亀元年(724)に玉津島(若の浦)を訪ねます。10月5日に平城京を出発し、7日に「那賀郡なまかのまがりのかりみや玉垣勾頓宮」に宿泊しました。現在の粉河寺の南東の、紀の川の近くの地にあったと考えられています。その後、天平神護元年(765)、聖武天皇の娘の称徳天皇も玉津島に行幸します。父・聖武天皇の通った道筋をほぼ忠実にたどっています。前日は伊都郡に泊まり、翌日「那賀郡なまかのまがりのかりみや鎌垣行宮」に泊まりました。この地は、「玉垣勾頓宮」とほぼ同地か、少し北の山寄りの地と考えられています。なお前日の伊都郡の宿泊地は「大我野」(コース1参照)であったと思われる。



玉垣勾頓宮跡

粉河寺

粉河寺は寺が所蔵する『粉河寺縁起絵巻』(国宝)に宝亀元年(770)に大伴孔子古が創建したと伝えられています。

寺の入り口である大門(国重文)は宝永4年(1707)に建てられた三間一戸の楼門です。大門を通り抜けると東西約1km、南北約0.7kmの広大な寺域が広がっています。大門を抜けると参道には不動堂、御池坊、童男堂があり、一段高い中門(国重文)があり、そこを通ると本堂と千手堂が見えます。中門の額に書かれた「風猛山」の文字は紀州藩10代藩主徳川治宝の真筆です。

本堂(国重文)は西国三十三番霊場の札所寺院中最大のもので、本堂手前の階段両側の庭園(国名勝)は安土桃山~江戸時代初期に作られています。



粉河寺大門



粉河寺庭園